

第1回
まちづくり常任委員会
2月28日

▽新型コロナウイルスワクチン追加3回目接種について

8カ月を基本としていた接種間隔を6カ月前倒しすることが可能となった。対象者は、町民が約1千7百40人、住所地外接種者が約2百60人で合計2千人程を見込んでいる。

③3回目接種が遅いのは何か理由があったのか。

④接種間隔が8カ月から6カ月に変更になり、少しでも対象者を広げたいとの考えから調整に時間を要した。

▽町内居宅介護サービスの充実、訪問看護事業開始について

令和4年度から訪問看護サービスを提供できる体制を整えることとした。

現在、各事業所においてさまざまな居宅介護サービスが提供されているが、訪問系サービスの充実が求め

られているのが実態となっている。

訪問看護事業は、病気が障がいを持った方が住み慣れた地域や家庭で、その人らしい療養生活を送れるように支援するサービスで、内容は身体の清潔や食事の介助、病気等の確認、医師の指示による医療処置、そのほか在宅酸素や人工呼吸などの管理、床ずれ防止の工夫や指導。また、人工肛門などの後処置や、糖尿病によるインシュリン自己注射などにも対応をする。

現在、在宅サービスを利用している方は56名いるが、そのうち訪問看護の利用推進者は12名ほど。

人材や経費、実施までの期間などの面から、既に天塩町にある北海道総合在宅ケア事業団天塩サブステーションから、看護師を派遣してもらう方向で調整している。

▽令和4年度農業経営に関する支援事業について

①幌延町農業経営継承奨励事業について

本町で農業を営む家族労働を基幹とする経営体の後継者で、49歳以下または第三者継承予定者に対し百万円の奨励金を交付する。農業経営改善計画等の認定を受けること、家族経営協定を締結すること、経営継承後5年間は農業経営を営むことの3つを要件とする。

②幌延町生乳生産拡大事業について

初妊牛の導入に対し1頭当たり20万円を上限に10頭まで補助してきたが、さらに生産拡大を図るため、低能力牛の更新に対しても新たに支援することとする。今後は、既存の増頭枠で10頭、生産性の向上枠で10頭の最大20頭まで補助可能となる。

▽下水道管路改修工事に係る詳細設計業務について

町道駅前仲通線は、開削工法により新たに下水道管を敷設する。町道3条仲通線は、推進工法で新たに下水道管を敷設し、また新たにマンホールポンプを設けて、圧送する内容とする。

今後、道路改良計画と併せて進める必要性があり、課題などを整理する期間も必要なことから、詳細設計は当初予算ではなく、6月補正予算にて計上予定。

▽除雪車運行管理システム改修業務について

令和元年、本システムを導入したが、夏場作業にも利用できるシステムに改修を進め、職員の事務軽減を図っていく。

▽地域コミュニティ形成事業について

集落地域における機能維持を図ることを目的に、問



寒別地区をモデルケースとした、地域に必要なサービスを提供する拠点を設けることによる集落の存続を図るための事業。

昔は皆が余裕があり、向こう3軒両隣機能で果たしていた地域の支え合いを組織として果たしていくべきとの観点から、地域集落の機能を提供する拠点「集落支援センター」の創設。現在は実証実験として、地域交通、日常生活支援なども行っている。

▽オトンルイ風力発電更新事業について

風力発電を新たに設置する場所は現在と同じ浜里地区で、発電規模も現行と同様の2万1千kWとなるが、発電機は現行の28基から5基へと変わる。蓄電池は40MW級で、総工費は約百億円を見込んでいる。

⑤幌延町の出資割合に変更はないのか。

⑥新たな出資者の参画について検討中だが、幌延町の持分3%は変更せず、97%の株式を保有するJFEE